

団体名	兵庫・生と死を考える会
活動テーマ	兵庫・生と死を考える会 2016年度 講演会 人生の中の喪失と悲嘆



兵庫・生と死を考える会は創立28年を迎えましたが、「生と死を考える」ことを、「生と死の教育」「ターミナルケア」「グリーンケア」の3本の柱で活動を続けてきました。

「生と死の教育」は子どもたちにいのちの尊さを、かけがえない私のいのちと、同じ重さの友達のいのちを見つめてもらうように、研究会をおこし、結果を冊子にまとめました。「ターミナルケア」では終末期にある方のこころの平安を願って、各界の講師を招いて勉強会・研修会を開いて来ました。「グリーンケア」では何かを失った時の悲嘆の苦しみにめげないで立ち上がるために、また悲嘆者を支えるために学んできました。

今回、助成を頂いた講演会では「グリーンケア」を中心としたお話しを、元サッカー日本代表監督の岡田武史先生をお招きして伺う機会を得ました。先生はスポーツ選手が第一線から退いた後の人生を、如何にうまく乗り越えて生活するかを心配されて、一般社団法人 グリーンケアパートナーの理事としてもご活躍なさっております。

講演会の第一部は本会会長の高木慶子からの質問に答えていただくという形式で進行しました。第二部は岡田先生に「ジュニア指導者に求められるもの」というテーマでお話し頂きました。

参加者は、年齢層が若く、スポーツ界・教育関係の方も多く来られていました。

岡田先生は「僕は人に悲嘆を与えた側です」と自虐的におっしゃいましたが、ご自身の厳しい経験を通して語られた言葉の奥深さを参加者は受け取られたと思います。